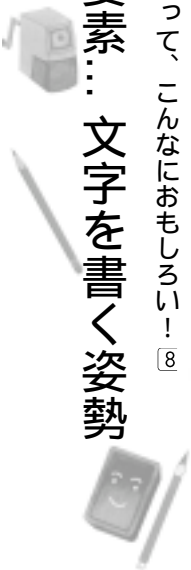


書写の要素…文字を書く姿勢

山梨大学教授 宮澤 正明
みやざわ まさあき

書写に必要な事項を整理して取り上げたものに、「書写の要素」があります。言うまでもなく、小・中学校国語科書写の学習指導で扱われる事項です。学習指導要領では「書写の要素」を系統立てて、児童・生徒の発達段階を考慮して仕組まれています。

学校生活は文字を書く活動に満ちあふれています。書写の指導者はもちろんですが、児童・生徒の書き文字と接し、板書やノートへの書き込みなど自らの書き文字を児童・生徒に示す立場にある先生方にとって、「書写の要素」は欠かせない事項であるといえます。

「書写の要素」は十あります。次に挙げてみましょう。

1 姿勢・執筆

文字を書くときの姿勢のとり方、筆の持ち方に関する事項です。小学校低学年の書写で扱われるもつとも基礎

的な要素といえるでしょう。

2 用具・用材

文字を書くのに必要な用具・用材の知識や用い方に関する事項です。小学校低学年では硬筆を主にした用具・用材のことが、同じく三年生からは毛筆にかかわる用具・用材のことが主に扱われます。

3 筆使い（用筆・運筆）

文字の点画の始筆・送筆・終筆の書き方に関する事項で、正しい文字を書くために欠かせません。毛筆の筆使いを書道では「用筆・運筆」と言います。その習得は非常に困難であることから、筆使いといえは毛筆の筆使いをさすように思われますが、硬筆における点画の書き方の場合も筆使いと言いならわしています。

4 筆順

文字を書く場合、その文字を構成する点画のある一定

の順序をもつて構築していきます。ある一定の順序とは、字形が整いやすく書きやすいといった機能性をもった順序です。これが筆順です。文字を実現し、習得するうえで欠かせない要素です。

5 字形

文字を正しく整った形として実現化するためには、点画と点画との関係、部分と部分との関係、概形、中心などが適切である必要があります。これらのことを扱う要素です。書写の学習の中で最も中核をなす要素であり、その内容も多岐にわたります。

6 文字の大きさ

文字には、各文字それぞれに固有の形があるとともに、相対的な大小があります。例えば、画数の少ない漢字は画数の多い漢字に比べて小さく書かれるものが多く、漢字と仮名では漢字が大きく書かれるなどです。文や文章を読みやすくするために大切な要素です。

7 速さ

小学校高学年、中学生にもなると文字を書く量が急激に多くなります。長い文・文章を書くうえで、読みやすくしかも速く書くためには、速書きに適した書き方があり（いわゆる許容される書き方）、さらに、楷書より速く

書くことができる行書があります。平仮名も行書に調和する書き方があります。これらのことを扱う要素です。なお、行書は中学校で扱うことになっています。

8 字配り、配列・配置

文字、語、文、文章がある用紙にまたは限られたスペースに読みやすく調和よく書くために必要な事項です。字配りは、小学校の書写において毛筆を使用して書く場合、字間・行間・行の中心・上下の余白などを適切に書く方法をさし、配列は硬筆を用いて多字数を書く場合、文字の中心と行の中心をそろえ、行が曲がりたり乱れないように書く方法をさします。なお、中学の書写では、字配りと配列、毛筆と硬筆の違いを区別せず、両者を含めて配列・配置の語を用いています。

9 書式・形式

手紙、はがき、ポスターなど日常生活で用いられる書式や形式の書き方に関する事項です。また、縦書き、横書きなどの書き方もここに含まれると考えられます。書写学習の日常化を図ることが課題とされていることから、今後重要な要素になります。

10 良否の弁別

書かれた文字や文章などが上記の1～9までの要素と

照らし合わせたとき、適切であるかどうかを判断する能力や感覚をさす要素です。

.....

「文字を書く姿勢」について考える

これから「書写の要素」の中からポイントになる部分を抽出し、『書写』ってこんなにおもしろい!』と思えるような書写指導の方法について考えてみましょう。

今回は、「書写の要素」の1にある「文字を書く姿勢」について取り上げます。

教科書に掲載される文字を書く姿勢

姿勢は文字を書くうえで最も基礎となることから、書写の教科書の最初には、必ず文字を書く姿勢が写真で掲載されています。下に、平成十四年版の光村図書の書写二年教科書に掲載されている写真を取り上げました。

腰掛けに掛け、机に向かって文字を書く姿勢は凛としており、まさに望ましい姿をしています。

この姿勢を少し分析してみましょう。

体重の三点分散。足と左手の役割を知ろう

腰掛けに掛けて右手で文字を書く場合、体重は足、腰、左手の三点で支えられます。しかし、ほとんどの体重は腰に集中します。両足と左手は体の体重のほんの一部分を支えているにすぎません。では、足と左手はさほど重要な役割を果たしていないのでしょうか。文字を書く際の望ましい姿勢は、上体がやや前かがみになります。したがって、前方にかかった体重の分を足のつま先部と左手が支えているのです。しかも上体の微妙な傾きや動きをコントロールする働きがあります。左右の足はやや開

き、左手の位置は、机の下部に置くと上体が動きやすいです。ひざを伸ばしたり放り出してしまい、足裏を床にしか



教科書二年 3ページ

りつけていない姿勢をよく見かけますが、これでは上体のコントロールを失い、文字を書く手の機能性も低くなります。

上体が動きやすい位置は「げんこつ」一つから

机と腹の距離を考えてみましょう。大切なことは、前かがみになった上体を動きやすい状態に保つことです。そのためには、机と腹の位置関係は握りこぶし(げんこつ)一つ分の距離がよいとされています。付かず離れずの距離といえるでしょう。不思議と、この距離が適切な前かがみ角度を作ってくれるようです。背は、前かがみになっていきますから、当然背もたれに付けることはありません。

頭の位置は文字が書かれる部分よりやや左に

文字が書かれる部分をやや左からのぞく格好に頭を位置させます。真上ではありません。ただ、頭を左に傾けたり、上体を傾けて斜めからのぞき込んだりする姿を見かけますが、これでは、書かれる文字が相当にゆがんで見えているはずで、書いているときに見えている形と実際の字形とに大きなずれが生じていることになります。

望ましい姿勢は、学習意欲の反映

人が意欲的に行動しているときの姿は、すべて前かが

みになっていきます。スタート直前のランナーを思い浮かべてみてください。「位置について、よいい。」とコールされると皆前かがみになります。興味深い話を聴くとき、その声を聞き漏らすまいとして聴衆は前かがみになります。私事ですが、落語が好きで寄席に通っていた時期がありました。そのときの観客の様子です。前座の落語家が出演しているときは背もたれにもたれていた観客が(私も含めて)、お目当ての真打ちが登場すると一斉に足を整え背筋を伸ばし前かがみになったのです。あたかも笑うための準備をしているかのようなでした。これらはすべて、意欲化の現れです。何かを求める意欲、何かが得られるといった期待感が前かがみにさせるのです。

これらの意欲、期待感を文字を書く姿勢の指導に応用することができるよう。望ましい姿勢は学習意欲の反映ととらえ、まずは興味・関心を高める授業を工夫し、学習意欲を引き出すことで望ましい姿勢への基盤が得られるのではないのでしょうか。「正しい姿勢で書きなさい。」と百回唱えるよりも、効果的かもしれません。